

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

— 平成 1 4 年 3 月 調査結果 —

(平成 1 4 年 4 月 2 日)

○調査期間：平成 1 4 年 3 月 1 9 日～2 6 日

○調査対象：全国の 3 9 7 商工会議所が 2 6 2 2 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 7 製造業 6 3 5 卸売業 2 3 7
小売業 7 5 3 サービス業 6 1 0

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

※ D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 4、7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成14年3月調査結果のポイント】

改善見られるも依然続く厳しい業況

- 3月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、全業種でマイナス幅が前月水準より縮小したことから、前月水準（▲63.1）よりマイナス幅が8.7ポイント縮小して▲54.4となった。平成12年秋から業況悪化傾向が続き、昨年12月以降は、平成10年12月以来のマイナス60ポイント台となっていたが、今月は、サービス業および小売業を中心に、全業種で悪化度合いが弱まった。全産業合計での縮小幅8.7ポイントは、消費税率引き上げ直前の駆け込み需要等により調査開始以来で最大のマイナス幅縮小となった、平成9年3月期（11.9ポイント縮小）以来。しかしながら、依然として、水準としてはマイナス50ポイント台半ばと厳しい状況が続いているうえ、今月の急速な気温の高温化にともなう売上増といった、特殊要因的な声も多いことから、未だ地域経済や中小企業の足元の景況感は、楽観を許さない状況である。

建設業では、引き続き、公共工事の削減や民間設備投資の低迷により、厳しい状況が続いているとともに、先行きも不透明で不安感が高まっているとの声が多く寄せられている。そうした中で、「住宅関連の受注があり売上はやや好転」（大工工事）、「民間工事に若干の動きが見え始めている。向こう3ヵ月の見通しは決して明るくはないものの、期待感はある」（建築工事）といった声も一部寄せられている。

製造業では、引き続き、「受注量は悲観の一途。貸し流しも厳しくなっている」（暖房装置・配管工事用附属品製造）、「原材料単価の上昇が目立ち、採算悪化が著しい」（鉄素形材製造）、「表示の変更は、零細業者にとっては大きな経費支出になっている」（その他食料品製造）といった厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。その一方、「米国経済の回復基調と在庫調整などで先行きへの期待感あり」（自動車・同附属品製造）、「半導体装置関連がボトムを脱した等により、発注予想が上向きとなってきた」（その他電気機械器具製造）、「繊維機械関連の仕事量が増えてきた」（金属加工機械製造）、「今月に入り、受注量が多くなっている」（ブリキ缶等製造）といった声も寄せられている。

卸売業では、「政府・日銀の総合デフレ策の追加に期待」（繊維品卸）、「4月からの花見等、不況感からの脱出に期待」（農畜産水産物卸）など、今後への期待を込めた声の一部聞かれるが、引き続き、「海外からの低価格商品の流入にともなう物価下落と、流通の中間排除により、問屋は厳しい状況下にある」（衣服・日用品卸）、「外食産業からの食料品（牛肉）等の発注が激減」（総合卸）、「売掛金増加傾向により資金繰りに苦慮」（農畜産水産物卸）といった厳しい声が多く寄せられている。

小売業では、「昨年3月の家電リサイクル法施行前の駆け込み需要の反動もあり、大型家電は不振」（百貨店）といった声のほか、引き続き、「改装投資を積極的に行っているが、冷え込む消費マインドを回復させるに至らず」（百貨店）、「買上単価の下落傾向が続いている」（各種商品小売）、「厳しい状況に変わりなし」（商店街）といった声が多く寄せられている一方で、「花粉症関連商品の売上増で、やや好転の気配」（商店街）、「気温の上昇から春物商品が好調に推移」（百貨店）、「厳しい状況下であるが、少しずつ回復感が見られる」（商店街）といったコメントも寄せられている。

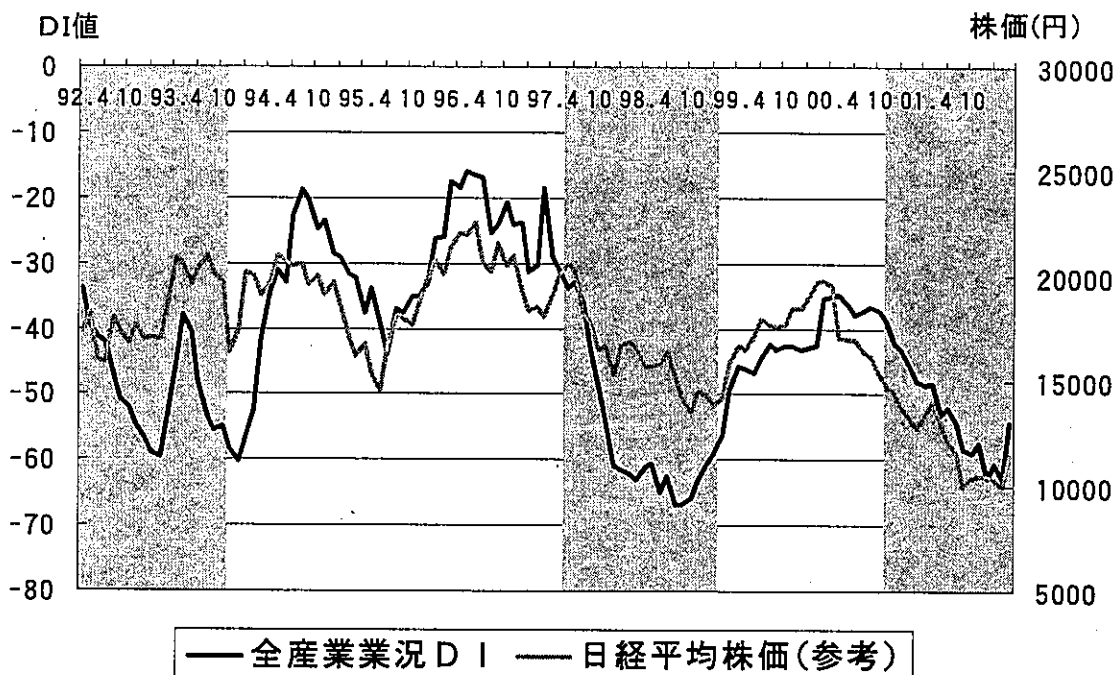
サービス業では、「歓送迎会が非常に少ない」（旅館）、「景気の低迷にともない、企業の出張も減少傾向」（旅館）、「来店間隔がだんだん伸びてきている。大型低料金店舗の影響で売上減」（理容）、「歓送迎会シーズンに入るも予約が低調」（食堂・レストラン）などの厳しい声が多く寄せられる一方で、「台湾・韓国等からのチャーター便による観光客が増加」（食堂・レストラン）、「輸送需要向上の関係から、製造業の回

復に期待が大きい」(自動車整備業)、「雪がほとんど降らないため、平日でも日帰り入浴客が多い。これから花のシーズンを迎え、売上増が期待できる」(旅館)といった声も寄せられている。

売上面では、全業種で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したことから、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が9.5ポイント縮小して▲46.5となった。採算面でも、全業種で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したことから、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が6.0ポイント縮小して▲49.9となった。

- 向こう3ヵ月(4月～6月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が▲42.0と、昨年同時期の先行き見通し(▲41.7)とほぼ同程度の見方となっている。
- 景気に関する声、当面する問題としては、新年度の公共工事の受注動向や、米国を始めとする世界経済の回復状況および在庫調整の動向などについての関心が高い。

《参考》過去10年間の全産業・業況DI値の推移



【業況についての判断】

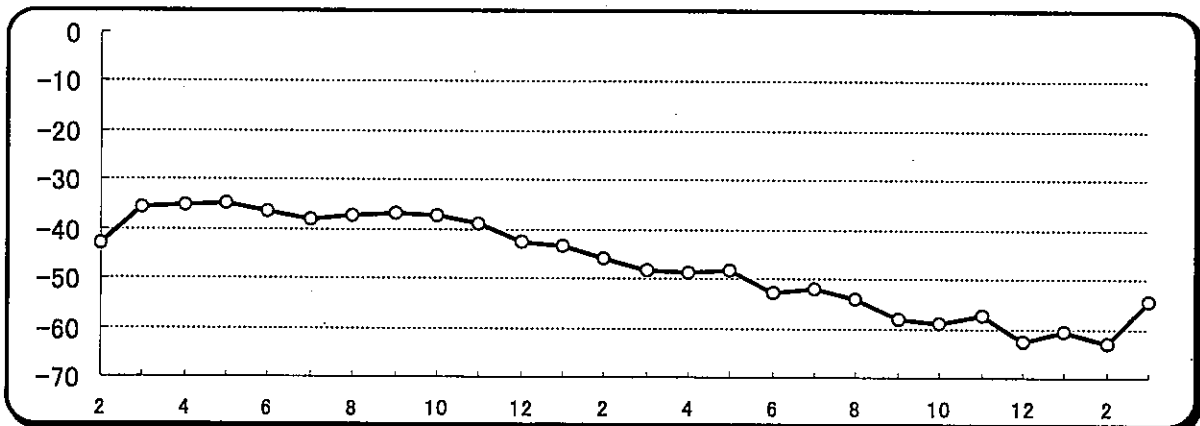
- 全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、全業種でマイナス幅が前月水準より縮小したことから、前月水準（▲63.1）よりマイナス幅が8.7ポイント縮小して▲54.4となった。平成12年秋から業況悪化傾向が続き、昨年12月以降は、平成10年12月以来のマイナス60ポイント台となっていたが、今月は、サービス業および小売業を中心に、全業種で悪化度合いが弱まった。
- 向こう3ヵ月（4月～6月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が▲42.0と、昨年同時期の先行き見通し（▲41.7）とほぼ同程度の見方となっている。

業況D I（前年同月比）の推移

	13年 10月	11月	12月	14年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	▲ 59.0	▲ 57.3	▲ 62.8	▲ 60.4	▲ 63.1	▲ 54.4	▲ 42.0 (▲ 41.7)
建設	▲ 69.5	▲ 66.3	▲ 70.7	▲ 69.1	▲ 69.0	▲ 64.7	▲ 61.6 (▲ 52.4)
製造	▲ 62.6	▲ 64.9	▲ 69.9	▲ 64.4	▲ 65.1	▲ 59.0	▲ 40.2 (▲ 43.3)
卸売	▲ 70.6	▲ 66.5	▲ 70.2	▲ 68.2	▲ 70.9	▲ 62.8	▲ 51.6 (▲ 43.6)
小売	▲ 53.0	▲ 50.1	▲ 56.2	▲ 52.9	▲ 59.6	▲ 49.4	▲ 37.1 (▲ 41.1)
サービス	▲ 50.5	▲ 47.3	▲ 54.2	▲ 55.9	▲ 58.2	▲ 44.6	▲ 32.6 (▲ 32.5)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3ヵ月の先行き見通しD I
 () 内は昨年3月の先行き見通しD I <以下同じ>

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



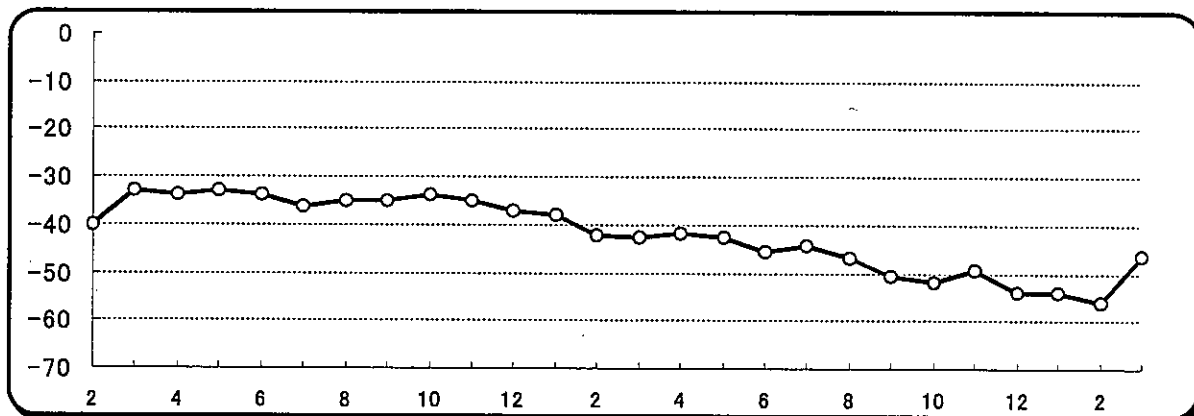
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、全業種で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したことから、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が9.5ポイント縮小して▲46.5となった。
- 向こう3ヵ月(4月～6月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI（今月比ベース）が▲35.9と、昨年同時期の先行き見通し（▲32.9）に比べてやや厳しい見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	13年			14年			先行き見通し 4～6月
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
全産業	▲ 51.8	▲ 49.4	▲ 53.9	▲ 53.9	▲ 56.0	▲ 46.5	▲ 35.9 (▲ 32.9)
建設	▲ 60.7	▲ 60.4	▲ 60.0	▲ 63.6	▲ 62.8	▲ 56.0	▲ 59.8 (▲ 49.1)
製造	▲ 53.9	▲ 54.6	▲ 60.0	▲ 59.6	▲ 60.6	▲ 52.3	▲ 36.4 (▲ 32.7)
卸売	▲ 61.4	▲ 59.4	▲ 57.0	▲ 63.1	▲ 62.3	▲ 58.3	▲ 36.3 (▲ 29.4)
小売	▲ 45.9	▲ 42.9	▲ 46.9	▲ 45.2	▲ 50.8	▲ 39.4	▲ 29.4 (▲ 35.6)
サービス	▲ 46.5	▲ 39.7	▲ 50.1	▲ 47.9	▲ 49.9	▲ 37.0	▲ 26.4 (▲ 19.4)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



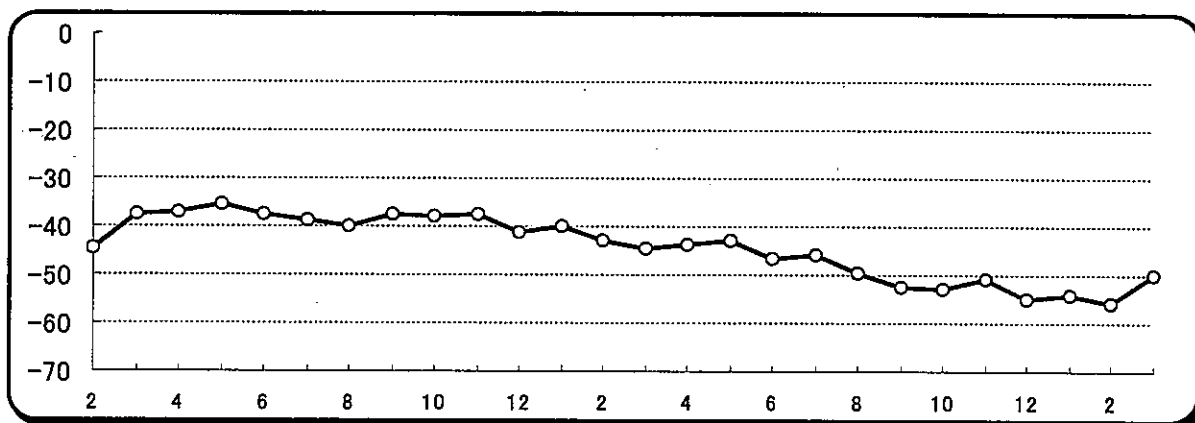
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、全業種で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したことから、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が6.0ポイント縮小して▲49.9となった。
- 向こう3ヵ月(4月～6月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲37.7と、昨年同時期の先行き見通し(▲34.4)に比べてやや厳しい見方となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

	13年 10月	11月	12月	14年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	▲ 53.1	▲ 50.8	▲ 55.2	▲ 54.0	▲ 55.9	▲ 49.9	▲ 37.7 (▲ 34.4)
建設	▲ 64.2	▲ 63.4	▲ 64.4	▲ 69.1	▲ 65.0	▲ 64.7	▲ 58.0 (▲ 51.8)
製造	▲ 59.5	▲ 59.6	▲ 63.5	▲ 60.4	▲ 61.3	▲ 54.2	▲ 41.2 (▲ 35.2)
卸売	▲ 58.2	▲ 51.6	▲ 57.6	▲ 57.3	▲ 61.6	▲ 53.2	▲ 37.6 (▲ 30.1)
小売	▲ 43.5	▲ 40.8	▲ 45.4	▲ 43.1	▲ 48.5	▲ 44.1	▲ 29.3 (▲ 33.5)
サービス	▲ 47.5	▲ 44.0	▲ 50.1	▲ 48.5	▲ 50.6	▲ 40.2	▲ 29.8 (▲ 24.1)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りDI (前年同月比) の推移

	13年 10月	11月	12月	1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月
全産業	▲ 37.1	▲ 38.6	▲ 42.5	▲ 41.2	▲ 42.7	▲ 41.1	▲ 33.9 (▲ 27.1)
建設	▲ 43.2	▲ 47.7	▲ 53.2	▲ 45.7	▲ 49.3	▲ 49.3	▲ 48.3 (▲ 34.4)
製造	▲ 43.4	▲ 44.8	▲ 51.8	▲ 48.2	▲ 49.3	▲ 49.0	▲ 40.6 (▲ 28.5)
卸売	▲ 34.4	▲ 37.4	▲ 35.7	▲ 43.0	▲ 40.6	▲ 37.0	▲ 28.6 (▲ 23.4)
小売	▲ 28.9	▲ 29.1	▲ 34.3	▲ 32.3	▲ 37.4	▲ 32.4	▲ 26.3 (▲ 26.3)
サービス	▲ 34.3	▲ 35.1	▲ 34.1	▲ 37.7	▲ 36.0	▲ 36.6	▲ 27.6 (▲ 23.2)

$$DI = (\text{好転の回答割合}) - (\text{悪化の回答割合})$$

【前年同月比DI】 サービス業と建設業以外の3業種において悪化超感が弱まる。

【先行き見通しDI】 小売業で昨年同時期と同水準となる見通し。また、その他の4業種で、昨年同時期に比べ悪化超感が強まる見通し。

仕入単価DI (前年同月比) の推移

	13年 10月	11月	12月	14年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月
全産業	2.1	4.9	5.1	3.7	2.1	3.2	▲ 0.9 (0.2)
建設	5.0	6.3	4.1	1.5	2.6	4.7	▲ 0.7 (▲ 1.1)
製造	▲ 4.8	0.7	1.4	▲ 3.1	▲ 5.0	▲ 2.2	▲ 5.9 (▲ 5.8)
卸売	9.9	12.3	18.7	14.7	11.3	13.5	5.2 (6.8)
小売	7.7	7.9	12.0	11.4	8.7	8.0	5.2 (7.7)
サービス	▲ 2.0	1.6	▲ 4.1	▲ 1.3	▲ 1.8	▲ 2.1	▲ 5.5 (▲ 4.4)

$$DI = (\text{下落の回答割合}) - (\text{上昇の回答割合})$$

【前年同月比DI】 建設業、製造業および卸売業で下落超感が強まる。

【先行き見通しDI】 建設業を除く4業種で、昨年同時期に比べ下落超感が弱まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	13年 10月	11月	12月	14年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	▲ 17.2	▲ 16.8	▲ 19.2	▲ 19.3	▲ 19.4	▲ 18.6	▲ 17.6 (▲ 13.4)
建設	▲ 31.2	▲ 31.5	▲ 34.6	▲ 34.5	▲ 36.5	▲ 35.8	▲ 36.1 (▲ 24.3)
製造	▲ 25.6	▲ 26.2	▲ 30.7	▲ 30.2	▲ 27.7	▲ 26.8	▲ 22.2 (▲ 14.8)
卸売	▲ 20.3	▲ 18.7	▲ 19.2	▲ 24.2	▲ 21.9	▲ 21.8	▲ 17.8 (▲ 18.2)
小売	▲ 8.4	▲ 4.5	▲ 7.2	▲ 8.1	▲ 9.8	▲ 6.9	▲ 7.0 (▲ 10.3)
サービス	▲ 7.3	▲ 9.9	▲ 9.5	▲ 8.1	▲ 8.9	▲ 10.7	▲ 12.0 (▲ 6.1)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比D I】 サービス業を除く4業種で過剰超感が弱まる。

【先行き見通しD I】 建設業、製造業およびサービス業で、昨年同時期に比べて過剰超感が強まる見通し。

【平成14年3月の景気キーワード】

○ 先行き不透明感

依然として、先行きの業況に関する不透明感や先行きへの不安に関する指摘が多く寄せられている。建設業からは、「国の公共事業、特に道路関係の工事量が大幅に減少することが予想されるため、土木関係を中心に危機感」（釧路・一般工事）、「公共工事、民間設備投資とも依然として状況は厳しく、好転する兆しは見られない」（赤穂・一般工事）といった声が、製造業からは、「コストダウン要請がさらに厳しくなる」（安城・自動車・同附属品製造）「非常に厳しい。先行きに不安を抱える企業が多い。早々に景気対策を求める」（延岡・建設用・建築用金属製品製造）などの声が寄せられている。また、卸売業・小売業・サービス業からは、「海外からの低価格商品の流入にともなう物価下落と、流通の中間排除により、問屋は厳しい状況下にある」（岡山・衣服・日用品卸）、「改装投資を積極的に行っているが、冷え込む消費マインドを回復させるに至らず」（堺・百貨店）、「買上単価の下落傾向が続いている」（桐生・各種商品小売）、「景気の低迷にともない、企業の出張も減少傾向」（静岡・旅館）などの声が寄せられている。

○ 倒産・廃業

今月についても、長引く低迷や先行き見通しが厳しい影響から、倒産や廃業についてのコメントが多く寄せられた。「木造住宅の建築需要の落ち込みにより、業界としては最悪状況にあり、廃業企業も出ている」（檀原・建築組立材料製造）、「3月に入って消費地大型卸問屋が倒産した為、販路狭少で困った」（瑞浪・家具・建具等卸）、「引続き地元の老舗店舗の廃業が目立つ」（町田・商店街）などの指摘が寄せられている。

○ 回復への期待感

今月は、「民間工事に若干の動きが見え始めている。向こう3ヵ月の見通しは決して明るくはないものの、期待感はある」（所沢・建築工事）、「米国経済の回復基調と在庫調整などで先行きへの期待感あり」（豊橋・自動車・同附属品製造）、「半導体装置関連がボトムを脱した等により、発注予想が上向きとなってきた」（北上・その他電気機械器具製造）、「繊維機械関連の仕事量が増えてきた」（松任・金属加工機械製造）、「気温の上昇から春物商品が好調に推移」（横浜・百貨店）、「厳しい状況下であるが、少しずつ回復感が見られる」（山形・商店街）、「台湾・韓国等からのチャーター便による観光客が増加」（釧路・食堂・レストラン）など、米国経済の回復や在庫調整の進展等にもなう受注量の増加や、気候温暖化による季節商品売上増等、業況回復への期待感に関するコメントが寄せられた。

ただし、「公共工事は出てきているが、秋枯れが予想」（帯広・一般工事）、「全体的には回復基調にあるが、透明性に欠ける」（小千谷・その他電気機械器具製造）、「暖かい陽気のため春物がやや好調だが、本格的な売上回復には至っていない」（川崎・百貨店）など、業況悪化が下げ止まったと断言できる状況には、未だ至っていないことがうかがえる。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
14年 1月	先行き不透明感	倒産・廃業	円安
14年 2月	先行き不透明感	倒産・廃業	食品表示問題
3月	先行き不透明感	倒産・廃業	回復への期待感

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	<p>業況DⅠは3ヵ月連続で、また、売上・採算DⅠは2ヵ月連続で、それぞれ前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。引き続き、公共工事の削減や民間設備投資の低迷により、厳しい状況が続いているとともに、先行きも不透明で不安感が高まっているとの声が多く寄せられている。そうした中で、「住宅関連の受注があり売上はやや好転」（大工工事）、「民間工事に若干の動きが見え始めている。向こう3ヵ月の見通しは決して明るくはないものの、期待感はある」（建築工事）といった声も一部寄せられている。</p>
製 造	<p>業況・売上・採算DⅠとも、前月のマイナス幅拡大から反転し、いずれも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。引き続き、「受注量は悲観の一途。貸し渋りも厳しくなっている」（暖房装置・配管工事用附属品製造）、「原材料単価の上昇が目立ち、採算悪化が著しい」（鉄素形材製造）、「表示の変更は、零細業者にとっては大きな経費支出になっている」（その他食料品製造）といった厳しい状況を訴える声が寄せられている。その一方、「米国経済の回復基調と在庫調整などで先行きへの期待感あり」（自動車・同附属品製造）、「半導体装置関連がボトムを脱した等により、発注予想が上向きとなってきた」（その他電気機械器具製造）、「繊維機械関連の仕事量が増えてきた」（金属加工機械製造）、「今月に入り、受注量が多くなっている」（ブリキ缶等製造）といった声も寄せられている。</p>
卸 売	<p>業況・売上・採算DⅠとも、前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「政府・日銀の総合デフレ策の追加に期待」（繊維品卸）、「4月からの花見等、不況感からの脱出に期待」（農畜産水産物卸）など、今後への期待を込めた声の一部聞かれるが、引き続き、「海外からの低価格商品の流入にとまなう物価下落と、流通の中間排除により、問屋は厳しい状況下にある」（衣服・日用品卸）、「外食産業からの食料品（牛肉）等の発注が激減」（総合卸）、「売掛金増加傾向により資金繰りに苦慮」（農畜産水産物卸）といった厳しい声が多く寄せられている。</p>
小 売	<p>業況・売上・採算DⅠとも、前月のマイナス幅拡大から反転し、いずれも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「昨年3月の家電リサイクル法施行前の駆け込み需要の反動もあり、大型家電は不振」（百貨店）といった声のほか、引き続き、「改装投資を積極的に行っているが、冷え込む消費マインドを回復させるに至らず」（百貨店）、「買上単価の下落傾向が続いている」（各種商品小売）、「厳しい状況に変わりなし」（商店街）といった声が多く寄せられている一方で、「花粉症関連商品の売上増で、やや好転の気配」（商店街）、「気温の上昇から春物商品が好調に推移」（百貨店）、「厳しい状況下であるが、少しずつ回復感が見られる」（商店街）といったコメントも寄せられている。</p>
サービス	<p>業況・売上・採算DⅠとも、前月のマイナス幅拡大から反転し、いずれも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「歓送迎会が非常に少ない」（旅館）、「景気の低迷にとまなない、企業の出張も減少傾向」（旅館）、「来店間隔がだんだん伸びてきている。大型低料金店舗の影響で売上減」（理容）、「歓送迎会シーズンに入るも予約が低調」（食堂・レストラン）などの厳しい声が寄せられる一方で、「台湾・韓国等からのチャーター便による観光客が増加」（食堂・レストラン）、「輸送需要向上の関係から、製造業の回復に期待が大きい」（自動車整備業）、「雪がほとんど降らないため、平日でも日帰り入浴客が多い。これから花のシーズンを迎え、売上増が期待できる」（旅館）といった声も寄せられている。</p>

(参考)

【ブロック別概況】

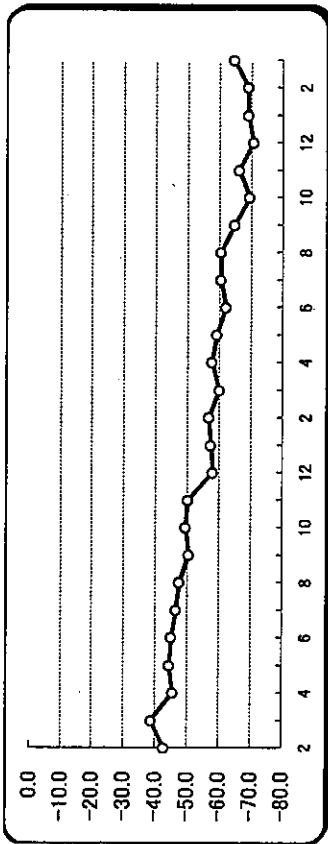
- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）をみると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。また、平成12年3月以来2年ぶりに、全ブロックにおいて、前月水準に比べてマイナス幅が縮小した。
- ブロック別の向こう3ヵ月（4月～6月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。また、北海道、北陸信越、中国、四国および九州の各ブロックでは、昨年同時期の先行き見通しに比べ、若干明るい見方となっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

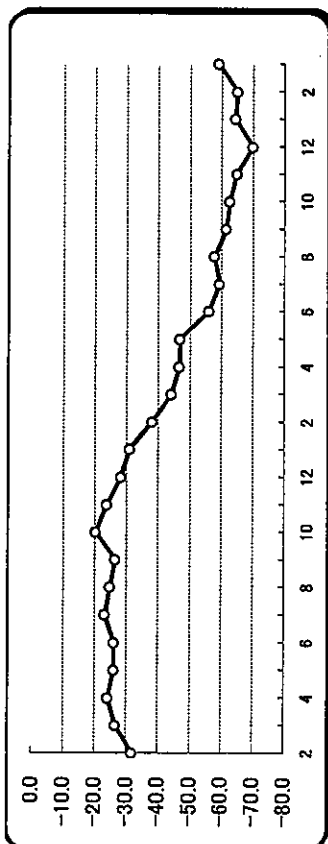
	13年 10月	11月	12月	14年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全 国	▲ 59.0	▲ 57.3	▲ 62.8	▲ 60.4	▲ 63.1	▲ 54.4	▲ 42.0 (▲ 41.7)
北 海 道	▲ 39.7	▲ 42.9	▲ 44.3	▲ 52.0	▲ 48.1	▲ 34.6	▲ 34.6 (▲ 39.5)
東 北	▲ 59.6	▲ 63.4	▲ 66.0	▲ 65.7	▲ 67.6	▲ 65.7	▲ 56.2 (▲ 45.0)
北陸信越	▲ 62.0	▲ 50.6	▲ 61.5	▲ 63.8	▲ 65.4	▲ 54.9	▲ 31.9 (▲ 38.4)
関 東	▲ 54.8	▲ 52.3	▲ 59.5	▲ 58.5	▲ 55.9	▲ 48.8	▲ 39.8 (▲ 35.2)
東 海	▲ 63.8	▲ 55.3	▲ 67.8	▲ 63.4	▲ 69.0	▲ 62.6	▲ 46.2 (▲ 45.3)
近 畿	▲ 65.8	▲ 68.7	▲ 68.8	▲ 66.7	▲ 71.4	▲ 66.7	▲ 52.5 (▲ 44.7)
中 国	▲ 64.1	▲ 62.7	▲ 68.2	▲ 57.5	▲ 65.3	▲ 52.7	▲ 36.0 (▲ 49.7)
四 国	▲ 65.2	▲ 63.5	▲ 67.9	▲ 58.3	▲ 70.2	▲ 61.1	▲ 38.9 (▲ 40.5)
九 州	▲ 58.6	▲ 58.0	▲ 62.4	▲ 54.5	▲ 60.5	▲ 44.2	▲ 38.1 (▲ 44.8)

業況DI (前年同月比) の推移 (全国)

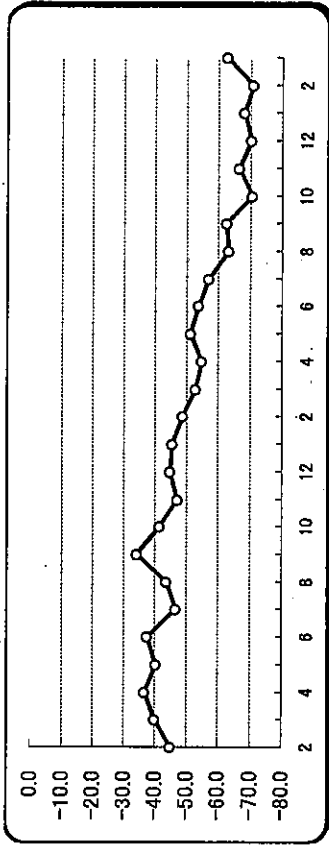
建設業



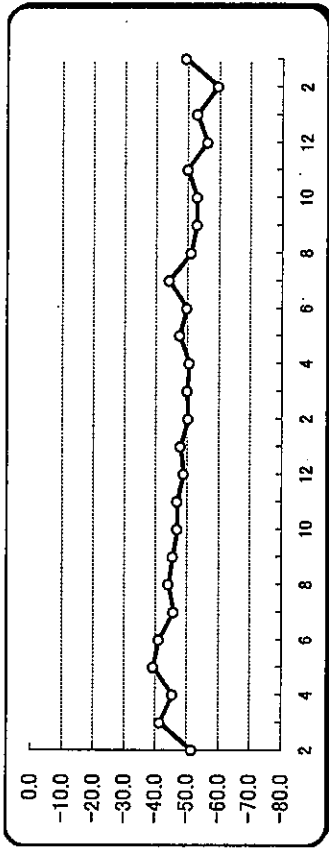
製造業



卸売業



小売業



サービス業

